

仙台二華高等学校

校訓 進取創造 至誠貢献



1 基本データ

創立：明治37年
課程・学科：全日制課程・普通科
生徒数：720名
所在地：〒984-0052
仙台市若林区連坊一丁目4番1号
TEL：022-296-8101
FAX：022-296-8103

ホームページアドレス：
<https://nika.myswan.ed.jp/>
電子メールアドレス：
nika@od.myswan.ed.jp
主な交通機関：
バス・地下鉄南北線ともに五橋駅から徒歩7分
JR仙台駅東口から徒歩15分
地下鉄東西線連坊駅から徒歩7分、宮城野通駅から徒歩9分

2 学校の特徴

キャッチフレーズ

限らない未来への挑戦

100年を超える伝統と実績をもとに新しい学びの場を創造し、21世紀の世界を切り拓き、先導していく、豊かな人間性と高い知性を有する人間を育成していきます。

(1) 学校の概要(沿革、環境、施設等)

本校は明治37(1904)年に私立東華女学校として創立し、その後県立の宮城県第二高等女学校と合併、昭和23(1948)年には学制改革により宮城県第二女子高等学校と改称、数多くの有為な人材を世に送り出してきました。そして、平成22(2010)年、男女共学、併設型中高一貫教育校の仙台二華中学校・高等学校として大きく生まれ変わってから17年目を迎えました。

校舎は仙台市の中心地に位置し、仙台駅から徒歩15分の立地で交通の便も良く、常に最先端の学術や文化に接することのできる環境にあります。また、常磐の杜で知られる緑豊かな地域の敷地を効率よく利用した7階建ての校舎には大きなアトリウム(吹き抜け)があり、明るくのびのびと勉強や部活動ができるようになってきました。さらに、敷地内には同窓会館とIB(国際バカロレア)棟もあり、充実した学習環境が整っています。創立以来の文武両道の精神と、自由で明るく親しみやすい生徒の気質、地道ながらも誠実に礼儀正しい伝統の気風は現在も受け継がれています。

(2) 教育方針

豊かな心と高い知性をもち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

【教育目標】

- 豊かで高い知性を養い、主体的・創造的に学ぶ生徒の育成
- 礼節と品性を尊び、豊かで包容力をもつ個

性あふれる生徒の育成

- ・真理と正義を愛し、未来を切り拓き世界に貢献できる生徒の育成
- ・健やかな心身を育み、国際社会の中でたくましく生き抜く生徒の育成

(3) 教育課程の特色

令和元年度入学生より単位制に移行し、今まで以上に自分の進路や興味・関心、さらに能力や適性などに合った授業を選択することができるようになりました。

授業は1コマ45分で、週に35コマ行います。生徒同士の教え合い、学び合いの中で、多様な個性が切磋琢磨しながら「豊かな学び」の伸長を目指します。1年次では、高入生と一貫生は別々のクラスに編成され、7クラス編成となります。2年次では、混合クラスとなり、本人の進路希望によって文系と理系のクラスに分かれ、6クラス編成になります。3年次では、進路目標に応じた選択科目を履修できるように教育課程を編成しており、難関国・公・私立大学の入試にも対応した授業を展開しています。将来の目標をきちんともって入学してくる生徒の一人一人の希望が無理なく達成できるよう環境を整えています。

また、令和2年9月に東北の公立高校として初めてIB認定校となり、令和5年3月にIB類型の第1期生が卒業しました。

(4) 行事・生徒会活動・部活動

本校生は、普段の授業は勿論のこと、学校行事・生徒会活動・部活動にも手を抜かず全力を尽くします。これらの行事を通して、多様な個性が互いに学び合い、磨き合いながら自分の可能性を発見し、人間性や社会性を高めていくことができるのも仙台二華の良さといえるでしょう。

本校の三大大行事と呼ばれる「体育大会」「合唱コンクール」「百華祭」は、中学校・高校合同で実施されます。実行委員の主体的な取組のもと、生徒が主役のこれらの行事は毎年大いに盛り上がります。

部活動は、運動部と文化部あわせて34部あり、高い志をもって活発に活動しています。

国際交流も盛んで、台湾、米国等の高校生が年間を通して来校しています。また、留学生も受け入れています。

課題研究では、夏と冬の2回、それぞれ選抜された生徒たちがメコン川流域国でのフィ

ールドワークを行います。2年次生全員が参加する海外研修旅行の実施や、米国デラウェア州の公立高校への交流派遣(ホームステイ)研修などを実施しています。

(5) 卒業生の進路状況

進路一覧(過去3年間、進学者・就職者数)

進路	R7	R6	R5
国立大学	101	97	109
国立短大	0	0	0
私立大学	64	89	77
私立短大	0	0	1
専各学校	4	4	2
就職	0	1	0
その他	58	41	49
卒業生計	227	232	238

主な進路先(令和8年3月卒業生)

()内は人数 (1)は省略

<国立大学>

東北大(24)、山形大(24)、宮城教育大(10)、宮城大(5)、秋田大(4)、新潟大(4)、東京学芸大(3)、北海道大(2)、岩手県立大(2)、山形保健医療大(2)、高崎経済大(2)、埼玉大(2)、東京大(2)、京都大(2)、室蘭工大、岩手大、会津大、宇都宮大、筑波大、東京科学大、一橋大、お茶の水大、横浜国立大、都留文科大、徳島大、他

<私立大学>

東北学院大(19)、東北福祉大(5)、東北医科薬科大(3)、早稲田大(3)、慶応大(3)、法政大(3)、東京理科大(3)、宮城学院女子大(2)、中央大(2)、青山学院大、明治大、自治医大、他

3 学校魅力発信

(1) 本校生徒の活躍

部活動

運動部と文化部あわせて34部あり、高い志をもって活発に活動しています。

令和7年度も多くの部が上位大会に進出しました。運動部ではワンダーフォーゲル部男子が県総体で優勝し、広島でのインターハイに出場。陸上部、新体操部、水泳部が東北大会出場など輝かしい成績を残しました。

文化部では放送部が全国総文祭、NHK杯全国放送コンテストに出場しました。また写真部が写真甲子園、クイズ研究部がAQL全日本クイズリーグにてそれぞれ東北代表として全国大会に出場するなど数多くの功績を残しています。



他にも二女高時代から続く音楽部とギター部合同演奏会「C&Gコンサート」や、茶道部による「ひな祭り茶会」、美術部による「二つ展」など様々な分野で活躍しています。

課題研究

「地球環境」をテーマとした探究学習をさらに追究し、学校設定教科「グローバルスタディ課題研究」において「世界の水問題」を解決するために国際的な課題研究に取り組んでいます。2月には校内で課題研究発表会を行い、お互いの研究成果を見せ合いました。



他にも様々な学会やシンポジウムに積極的に参加し、素晴らしい賞をいただきました。

選抜された生徒たちによるモン川フィールドワークが7月と12月に行われ、研究を深めました。



(2) 学校制服紹介

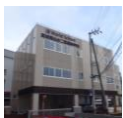


男子は学生服、女子はブレザーにスカートもしくはスラックスとなっています。学校指定のセーターとベストもあります。また、夏の暑さに対応し、紺色ポロシャツを導入しました。いずれもシンプルで飽きのこないデザインとなっています。

(3) 施設紹介

校舎は、「宮城県仙台二華中学校・高等学校」が開校した2010年に建てられました。7階建ての中央部は吹き抜けとなっており、天井から差し込む自然光が校舎内を照らします。

5月の鯉のぼりや12月のクリスマスツリーなど、四季折々の飾り付けを楽しむことができます。



令和3年に開講した国際バカロレア類型のための校舎（I B棟）も完成しました。



(4) 二華の三大行事

体育大会

4月は綱引きやリレー、長縄跳びなどの陸上競技、10月はバスケットボール、サッカーなどの球技をクラス対抗で競います。高校3年次生が色とりどりのクラスTシャツに身を包み、一致団結して臨む姿には他年次も一目置きます。



合唱コンクール

真剣勝負のコンクールです。本番までは短期間ながら、歌声が校舎内に響き渡ります。体育大会同様、高校3年次生の衣装パフォーマンスは必見です。

百華祭

文化部、有志団体が2日間に渡りイベントや展示、パフォーマンス、物品販売などを行います。

これらの行事に共通することは「生徒主体の行事」だということです。運営はもちろん、準備や後片付けまで、すべて生徒たちで行うことが仙台二華の伝統になっています。



(5) I B卒業生よりメッセージ



I B（国際バカロレア）は、知れば知るほど魅力的なプログラムです。

魅力の一つは、その特徴的な学び方です。多くの科目で「議論中心の授業」が展開されています。調べたことをもとに生徒自身が意見や疑問を持ち、他者の意見も意識しながら、多角的な視点で物事を考え抜きます。自分で研究を行うなど、実践的な学習活動がたくさんあるのもI Bならではの学びです。

もう一つの魅力は、様々な国際交流の機会です。多彩な背景を持つ海外出身の先生方との交流は、これまでの生活では得られなかった新しい気づきや、興味関心のきっかけを提供してくれて、視野が大きく広がります。I Bで学ぶ日々は、日本という小さな箱庭を出て、海外という未知の世界に目を向ける糸口となります。

また、I Bは「勉強」だけではありません。学問的な学びを深めると同時に、人間的な成長も期待できます。コミュニケーション力、時間や体調などの自己管理能力、批判的思考など、I Bで培う能力は将来、社会に羽ばたかううえでも大切なものです。

I Bでの2年間は、立ちふさがる困難に苦勞することも多く、楽に乗り越えられるものではありません。でも、この経験は一生の宝物であり、青春を賭けるにふさわしいものであると信じています！



I B 4期生（令和7年度卒業）より